

「ポケット・ブック」にみる 18 世紀イギリス文化の諸相

井石哲也

18 世紀イギリスの出版文化といえ、まず「小説」の流行と、これに密接に関連する「貸本屋」(circulating library) の普及と読者層の拡大といった側面が思い浮かぶ。小説ジャンルの大衆化のプロセスを考えると、1740 年頃から流行し始めた貸本屋が、大衆にとって重要な情報の流通拠点となっていたことは特筆すべきである。書籍が高価なために個人の購入が難しかった時代、小説一冊が数ペンスで借りられるシステムがうけて貸本屋は急成長し、世紀末にはイギリス国内で千軒以上を数えた¹。また道路の舗装、運河、鉄道、馬車のスピード化などの交通網の発達も、地方の書店とロンドンの書籍商との取引を活性化し、全国規模の出版流通ネットワークを構築した大きな要因である。18 世紀後半にはマッケンジー(Henry Mackenzie, 1745-1831) の『感情の人』(*The Man of Feeling*, 1771) に代表される「センチメンタル小説」の隆盛をみるが、その主たる読者は貸本屋で本を手にする中流階級の女性たちであった。貸本屋は、シェリダン(Richard Brinsley Sheridan, 1751-1816) の劇『恋敵』(*The Rivals*, 1775) の中で、「邪悪な知識の常緑樹」(ever-green tree of diabolical knowledge) として揶揄されているが、時代感覚を敏感にとらえるバロメーターでもあったのである²。

本稿では、貸本屋の流行と時代を同じくして、社交マナーの習得、質素・儉約等をうたい文句とし、「教養ある中流階級の若い女性」を主な購

買層に流行した「ポケット・ブック」(Pocket Book, 以下PB)に注目し、そこに反映されている文化的諸相について考察する³。

PBは今日でいう、文庫本サイズの手帳のこと(当時の12折版とほぼ同じ、約120mm×75mm)といえれば理解しやすい。PBには男性用と女性用が存在していたが、ここで扱う女性用PBの原型は、1704年に「ロンドン書籍商組合」(Company of Stationers)が出版した*The Ladies Diary: or, the Woman's Almanack*にすでにみられる。発刊当初は、月齢、馬車の料金表、通貨換算表の他、星座占い、謎々、判じ絵等を掲載した小冊子であった(図版1)。

その後、1740年代以降になると、前述した「貸本屋」の普及とそれに伴う女性読者数の増加により、貸本屋でも販売されていたPBは加速的に流行し始める。内容も、日記('Diary')をはじめ、金銭出納欄('Money receiv'd', 'Money paid'), 予定欄('Appointments'), メモ欄('Memorandum')等のページが加わることによって、より実用性の高いアイテムとして定着していった。1787年版PBでは特に、「手元ですぐに得られる情報源」として、ちょうどこの頃改定された最新の馬車の料金表と「窓税」(Window Tax)の新旧対照表が掲載されている。特に窓税については、詳細な税率を知るた



図版 1

めの貴重な資料であると同時に、ウィリアム 3 世の時代である 1696 年に施行され、1851 年の廃止まで長く続いた、この「不健康な」税制が、当時の人々の大きな関心事であったことが伺われて興味深い（6つを超える窓に税が課せられた。新税制の例：7-9 windows (2 shillings), 10-19 windows (4 shillings))。また、病気（風邪、歯痛等）に効く料理とレシピや、美容術（洗顔や、海草酢で磨くことで歯を白くする方法等）の紹介といった、今日の健康ブームに似た特集も見られる。

女性用の PB がその体裁上、大きく変貌を遂げたのは 1760 年以降である。この年から「ファッション・プレート」と呼ばれる、前年に最も流行

したドレスを纏った女性が新年度版 PB の口絵として登場したのである（それ以前は、時の君主がタイトルページを飾っていた（(図版 1) 参照：アン女王）。ちょうど同時期に、ゴールドスミス（Oliver Goldsmith, 1730-1774）によって発刊された『レディーズ・マガジン』（*Lady's Magazine*, 1759-1763）にも最初のファッション・プレートが掲載され、人気を呼んだのがきっかけとなり、以後これが PB のトレードマークとなる。ここでは 1762 年 PB (図版 2) と、貸本屋兼女性向け小説の出版で有名であった書籍商ウィリアム・レイン（William Lane, 1745-1814）の「ミネルバ・プレス」（Minerva Press）



*A Lady in the Dress of the Year
1761*

図版 2

から刊行された1774年版PBの口絵(図版3)を紹介する⁴。この頃には、PBの値段は1シリングにほぼ固定化され、毎年秋に次年度版が発売される習わしとなった⁵。

PBがレインのような貸本屋によって出版、かつ数多く販売されていた事実については、さらに考察を進めてみたい。貸本屋の普及に比例して、読書、特に「小説」が若い女性たちの生活に浸透していた状況は、本稿の冒頭でふれたシェリダンの劇『恋敵』に象徴的に描かれている。ロマンス指向の女性リディア・ラングウィッシュのもとに、メイドのルーシーが貸本屋へのお使いから戻ってくるシーンをみよう。



*A Lady in the most fashionable Dress
of the Year 1773.*

S. Wale delin.Sharp Sculp.

T H E .
LADIES MUSEUM,
OR COMPLETE
POCKET MEMORANDUM BOOK.

For the YEAR 1774.

Embellished with an elegant VIEW of the late
ROYAL REVIEW at PORTSMOUTH, from a
Drawing taken on the spot; and a LADY in
the genteelst full Dress.

C O N T A I N I N G,

<ul style="list-style-type: none"> 1. An Address to the Ladies. 2. Useful Lessons for the Conduct of Female Life. 3. New and elegant Bills of Fare for every Month. 4. One Hundred and Eighty Pages ruled for a Memorandum-Book, on an approved plan. 5. Twenty-four of the most approved Country-Dances, with Directions for the Dancing in Time. 6. The favourite New Songs. 7. Select Pieces of Poetry. 8. Maxims and Reflections for the Conduct of female Life. 	<ul style="list-style-type: none"> 9. Historical Anecdotes in Honor of the Fair Sex. 10. Alcator and Doristius. A Tale. 11. The Exemplary Wife, or Virtue rewarded. A Tale. 12. Description of a Friable. 13. Select Thoughts on Conversation. 14. Character of a Good Wife. 15. Useful Receipts in Cookery, Confectionary, &c. 16. Rates of Hackney Coachmen, Chairmen, Watermen, &c. 17. A Table of Expenses. 18. Necessary Tables for Marketing, &c.
--	---

L O N D O N :

Printed for W. L A N E, (No. 13,) Aldgate High-Street,
Price 1s. To be continued annually,

図版 3

「ほら、お嬢様。(コートの下や、ポケットから本を取り出して) これが『難題』で、…これが『感性の涙』と『ハンフリー・クリンカー』です。それから、『身分あるレディ自筆の回想録』と、『センチメンタル・ジャーニー』の第二巻でございます。」(80)

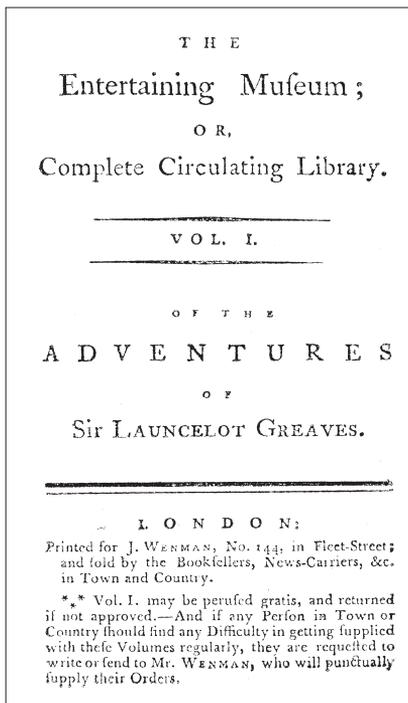
貸本屋から戻ったルーシーは「コートの下や、ポケット」から、隠していた「本を取り出して」いる。この記述は、18世紀を通じて、女性が新興ジャンルである「小説」を読むことに対し、根強い批判があったことを示すものである。また同じ場面で、男性の接近を察知したりディアはあわてて小説を隠し、まじめな読書をしている様を装う。

「さあルーシー、ここにある本を隠してちょうだい。早く、急いで！『ペレグリン・ピクル』は化粧台の下へ、『ロデリック・ランダム』は戸棚の中に、『無垢な密通』は『人間の義務』の中に挟むのよ…『感情の男』はあなたのポケットの中に入れて。それがすんだら『シャポーン夫人』を目のつくところに置いて、『フォーダイスの説教集』はテーブルの上に置くのよ。」(84)

当時の読書習慣として、説教集あるいはリチャードソン (Samuel Richardson, 1689-1761) の『パミラ』(Pamela, 1740)、『クラリッサ』(Clarissa, 1747-48) などの道徳的作品が、社交の場としての家庭で朗読された反面、多くの小説が、あくまで私室で黙読されなければならなかったのも事実である。そこで貸本屋がとったのは、本のサイズを、衣類の下などに簡単に隠せるサイズの12折版に組み直すという戦術であった。たとえば、スモレット (Tobias Smollet, 1721-71) の四作目の小説『サー・ランスロット・グリーヴズ』(Sir Launcelot Greaves) は元々8折版で1762年に出版された

が、その後1780年には「貸本屋版」として12折版で再登場し、人気本となった(図版4)⁶。先の引用部分に登場する、同じ著者による『ハンフリー・クリンカー』、『ペレグリン・ピクル』、『ロデリック・ランダム』も、のちに「ポケットの中」に簡単に隠せる大きさになった。このように、女性が手に取りやすくするため、ひいては女性の「隠れた楽しみ」としての読書空間へ侵入させるためには、12折版という本のサイズが必要だったのであり、さらにはPBがほぼ同じサイズであったことで、女性たちの小説読書の「カモフラージュ」が一層容易になったと想像できるのである⁷。

また、若い女性たちの関心は最新の流行ドレスだけにとどまらなかった。1779年版PBにはフランスのファッションの影響を受けて、英国でも女性用のバスローブ(robe-de-chambre)や「カプチン」(capuchin(フード付き外套))が流行していることにふれたエッセイ(On Female Dress)が掲載されている。特に中流階級の女性の間で、豪華な衣装への関心が高まった一因として、当時の上流階級におけるファッション・トレンドの過熱ぶりが考えられる。社交界をファッション面でリードした、第5代デヴォンシャー公爵婦人ジョージアナ(Duchess of Devonshire, Georgiana, 1757-1806)が国民を広

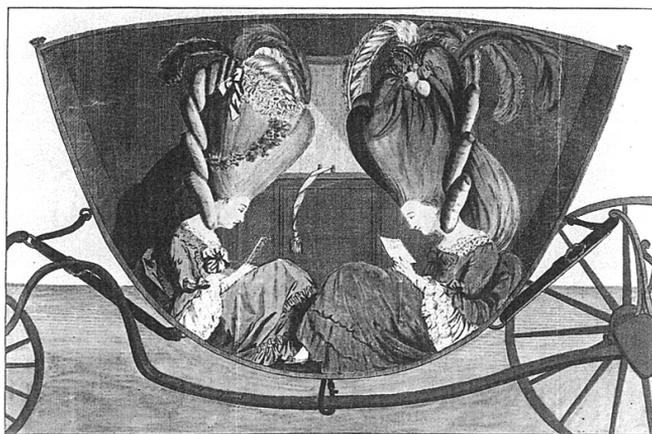


図版 4

く魅了したのはまさにこの時代であった（2008年には Amanda Foreman 著の伝記をもとにした映画 *The Duchess* が公開された）。

図版5は頭飾り（Head-dress）に逆上せた女性を題材にした諷刺画である⁸。二人の女性が、高くそびえる巨大な頭飾りのために普通に座席に座ることができず、床に張り付くようにしゃがみこんでいる姿が笑いを誘う。最新のドレスを纏った女性の口絵の裏ページに、さまざまな形の頭飾りのイラストが必ず掲載されるようになるという変化が起こったのは1780年以降のことであり、これもジョージアナがカリスマ的人気を誇っていた時期と合致する（図版6）⁹。

当時、華やかな社交場で行われる賭博は、上流階級には必須の娯楽であったが、労働者階級にとってのジン同様に、財政破綻の一大要因になっていた。PBがことさら「質素・儉約」の必要性を説き、金銭出納欄記入の習慣を勧めた背景に、こうした上流階級の悪癖から得られた教訓があったと考えられる。事実、妻が家計をうまく切り盛りし、家庭を円満にすること



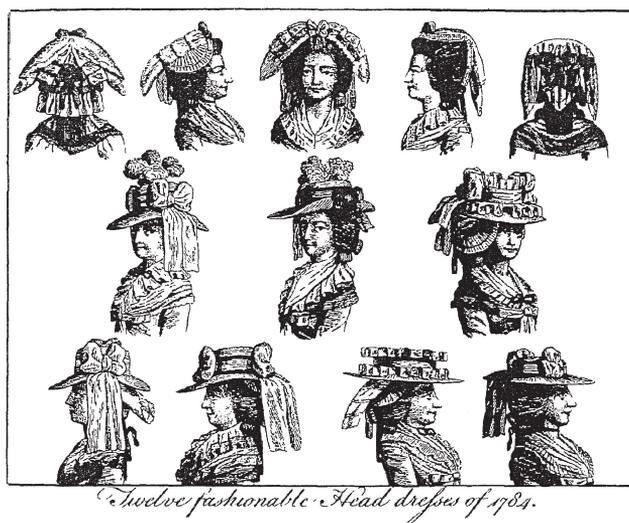
THE VIS' A VIS • BISECTED •
OR THE LADIES' COOP •

Pub. by Wm. & A. S. 1770 - 1771

図版5

との重要性や、「家事の上手な女性がいなければ、家庭は容易に崩壊してしまう」といった主張が、PBに掲載されたエッセイや詩の形でくり返し強調されている。たとえば、1789年版PBの‘On Female Oeconomy’と題されたエッセイは、「限られた家庭の財政内で、几帳面にお金をやりくりできれば、夫の信頼を勝ち得ると同時に、それは家族全体の将来をも約束することになるだろう。しかし現在、若い女性のための教育では、これがおろそかにされているがゆえに、PBに目を向け、この欠点を補う必要がある」と述べている。このようにPBは「コンダクト・ブック」(Conduct Book)的な役割を担っていたともいえるのである。

それではPBは、実際にその目的のために機能したのだろうか。PBはもともとプライベートなアイテムであるという性質上、古書市場での入手もきわめて困難であり、British Library (以下BL)を中心とするイギリスの図書館において閲覧可能なPBは30種類ほどという状況にある。それ



図版 6

でも PB の使用状況を、ある程度うかがい知ることができる。服飾に支払った金額を記入した一例として、1762 年版 PB に注目したい。ある日の収入 10 ポンド 10 シリングから、某女性は帽子に 1 ポンド 13 シリング 6 ペンス、ドレスに 4 ポンド 5 シリング、食費として 9 シリング 7 ペンス、雑貨に 1 ポンド 5 シリングを支払っている。現在の邦貨に換算すれば、ドレスだけで約 20 万円、帽子は 3 万円以上かかったことになる。このデータだけでも、ドレスの出費がいかに大きいかかわかる。また、BL 所蔵の最初期の PB、*The Ladies Compleat Pocket Book for the Year 1753* には、金銭出納欄への記入が全くない一方で、日記欄やメモ欄に毎日多くの記述が見られる。他の PB においてもほぼ同様である。このように、PB は、「質素・儉約」を称揚し、金銭管理の重要性を謳う一方で、女性たちのファッションへの憧れをかき立て、「浪費」を促したといえる。PB には、「コンダクト・ブック」の場合と同様の、「理想」と「現実」との乖離が示されているのである¹⁰。

こうした傾向のなか、PB は 19 世紀に入っても人気を保ち続ける。ここでは、1818 年に出版されたジェイン・オースティン (Jane Austen, 1775-1817) の小説『ノーサンガー・アベイ』(*Northanger Abbey*) に注目してみたい。

「いいこと、キャサリン。夜に社交場から帰るときには、首の周りを暖かくくるんでね。それから遣った金額をつけておくといいわ。そのためにこの手帳をあげますからね。」¹¹

六週間のバース滞在が決まった 17 歳の主人公キャサリン・モーランドが母親から一冊の「手帳」(little book on purpose)、すなわち PB を手渡される場面である。

この小説の舞台、18世紀に活況を呈したリゾート地バースについては、女性の社交場における礼儀作法への言及を1753年PBに確認できる（「バースとケンブリッジの社交場に関するマナー」(Rules relating to Bath and Cambridge)）。全11項目のマナーの中には、「夜会に出席する女性は、あらかじめ帰宅時刻に合わせて従僕を待機させておくこと」、「場内ではあからさまな嘘やスキャンダル発言を極力慎むこと」、「特に若い淑女諸君は、どれだけ多くの人の目が自分に注がれているかを意識すること」といった注意事項がみられる。

キャサリンのPBが、バース滞在中、どのように使われたかについては、残念ながら物語には描かれていない。その「メモ欄」には、親友イザベラと共に貸本屋で借りてきて読むゴシック小説のタイトルが多く書き込まれていたかも知れない。あるいは、ヘンリー・ティルニーがキャサリンに語った「日記を書くという（すばらしい）習慣」(the practice of keeping a journal (27))が実行され、保養地での日々の暮らしが記されたとも想像できる。オースティンのPBへのさりげない言及には、「衣服が情熱である」(Dress was her passion (20))アレン夫人の服装への過度の関心や、キャサリンたちの「ゴシック小説」賛美に代表される軽佻浮薄な志向に対して向けられた、作者の批判的視線が感じられる。PBは当時の女性達にみられるセンシティブな性質を強く反映させながら流行したという意味で、注目すべき「ファッション・アイテム」であり、「長い18世紀」における女性たちの生活ぶりを知る貴重な資料ともいえるのである。

注

- 1 Margaret Willes, *Reading Matters Five Centuries of Discovering Books* (New Haven: Yale University Press, 2008), 141.
- 2 Richard Brinsley Sheridan, *The Rivals, The Dramatic Works of Richard Brinsley*

Sheridan, ed. Cecil Price (Oxford: Oxford University Press, 1973), Vol. I, 85. 以下、同作品からの引用はこの版による。

- 3 「ポケット・ブック」は、正式には、参考文献に示すように、それぞれに異なる長い名称を持つものが多いが、本稿ではこれらを総称的に PB と呼ぶ。
- 4 レインは、ロンドンの家禽商であった父親から土地を受け継ぎ、1770年に書籍商として商売を始めた。その後、店舗をオールドゲイト(13 Aldgate High Street)に移した1773年秋から販売を始めたPB(図版3(1774年版))は、『女性の書齋』(*Ladies' Museum*)の名称で人気を得て、彼が亡くなる年まで続いた。
- 5 18世紀のイギリス通貨を現在の我々の感覚として納得できるように邦貨に換算することは容易ではないが、藤井哲「貨幣価値の見極め 18世紀英文学の理解のために」(福岡大学研究部論集、第六卷A人文科学編、2006)によれば、1ポンド=20シリング=240ペンス(約4万8千円)、1シリング=約2,400円、1ペンス=約200円が目安になる。
- 6 Tobias Smollet, *The Adventures of Sir Launcelot Greaves, The Entertaining Museum; or Complete Circulating Library* (edition) 2 vols. Printed for J. Wenman, 1780, The front page of Vol. I.
- 7 同様の意図を持って、本稿のシェリダンからの引用にも登場する『センチメンタル・ジャーニー』(*Sentimental Journey*, 1768)の装丁を12折版にする戦術をとった作家、スターン(Laurence Sterne, 1713-1768)についての論考は、拙稿「小説」が生み出す公共圏 — 「作者」と「読者」の会話空間 — 『十八世紀イギリス文学研究第3号 — 躍動する言語表象 —』、250-265参照。
- 8 "The Vis a Vis Bisected or the Ladies Coop", 1776. See Amanda Vickery, *Gentleman's Daughter Women's Lives in Georgian England* (New Haven: Yale University Press, 1988), 173.
- 9 *The Ladies' own memorandum-book; or, Daily pocket journal, for the year 1785*. Gale ECCO Print Editions (Reproduction from Bodleian Library (Oxford University)). PBについては、マイクロ・フィルムを原版とする、この復刻紙装版の登場によって、1750年代から1810年代までのPBを容易に閲覧できるようになった。それでもなお、その数は40種類に満たないのが現状である。
- 10 この傾向とはまったく逆に、PBに詳細な記録を残し、生活の実態を伝えて

いる例がある。ヨークシャーのジェントリ (gentry) であった、エリザベス・シャクルトン (Elizabeth Shackleton, 1726–1781) はその典型である。彼女はロンドン在住の友人たちとのやりとりや、新聞等の情報によって時代の「流行」に通じていたが、自身は決して「ファッション志向」の女性でなく、衣食住において質素をむねとし、「主婦」としての女性の役割がいかに重要であったかを実践した。詳細は *Gentleman's Daughter*, 4 Prudent Economy, 5 Elegance の各章参照。

- 11 Jane Austen, *Northanger Abbey*, ed. R.W. Chapman (Oxford: Oxford University Press, 1965), 19 (Chapter II).

参考文献

【一次資料 (Pocket Books)】

The Ladies Diary: or, the Woman's ALMANACK, For the Year of our Lord, 1710. Being the Seventh Almanack ever Publish'd of that kind. 筆者所蔵

The Ladies Complete Pocket Book for the Year of our Lord 1762. London: Printed only for John Newbery(B.L. Catalogue Number c.136.bb.30)

The Ladies Museum, or Complete Pocket Memorandum Book, For the Year 1774. London: Pritned for W. Lane 筆者所蔵

The Ladies Annual Journal, or Complete Pocket-Book, for the year 1779. (B.L. P.P.2469.cd.)

The Ladies' own memorandum-book; or, Daily pocket journal, for the year 1785. Gale ECCO Print Editions (Reproduction from Bodleian Library (Oxford University).

The Ladies Pocket Journal or Toilet Assistant: For the Year 1787. London: Printed for S. Blandon (B.L. P.P.2469.ch.(4.))

The Ladies Miscellany, or New, Useful and Entertaining Companion, For the Year 1789 Dedicated to the Ladies (B.L. P.P.2469.ch. (5.))

【二次資料 (引用したものを除く)】

Batchelor, Jennie, *Fashion and Frugality: Eighteenth-Century Pocket Books for Women.* *Studies in Eighteenth-Century Culture* Volume 32, 2004.

Foreman, Amanda. *Georgiana, the Duchess of Devonshire.* 1996; London: Harper Perennial, 2008.

コリンズ、A.S.『十八世紀イギリス出版文化史 作家・パトロン・書籍商・読者』
青木健・榎本洋訳 彩流社、1994.

清水一嘉『イギリス小説出版史 近代出版の展開』日本エディタースクール出版部、1994.

_____.『イギリスの貸本文化』図書出版社、1994.